

平成 22 年 5 月 8 日

JASV 正会員 殿

一般社団法人 日本養豚開業獣医師協会  
代表理事 石川 弘道

### 口蹄疫防疫活動後の JASV 獣医師の対応について

4 月 20 日 10 年ぶりに発生が確認された宮崎県における牛の口蹄疫の発生は、豚にも認められ、感染が拡大しています。本病防圧のためには迅速な陽性家畜の殺処分・埋却が要求されますが、現地では人手が不足し、スムーズに殺処分が行われていません。

このような窮状に対し、現地対策本部からの JASV 応援要請に答える形で、現在 JASV 正会員が現地の防疫活動に協力しているところです。今後防疫活動が終了し、スムーズに従来の仕事に復帰できることを目的とし、それぞれの地元に戻るまで以下のような防疫ルールを設定しましたので、順守してください。

1. 農場から出る時には、シャワーを浴び、農場で着用した下着、靴、作業着など全て交換し宿泊施設に戻ること。
2. 現地（農場で使用したものではなく、宿泊施設などで使用したもの。）で使用したものは、できるだけ現地で使い捨てる（特に靴）。どうしても使い捨てできないもの（衣類など）は、宿泊施設で洗濯する。
3. 作業終了翌日から 2 日間は、すぐに帰省せず、宮崎市内（空港周辺）または羽田空港周辺で待機すること。
4. その後帰省した後も 7 日間は農場訪問しないこと。合計 9 日間のダウンタイムを設けることとする。

参考資料（大竹聡先生作成）

口蹄疫ウイルスの人媒介伝播について科学的にわかっていること：

- ・ 感染豚に直接接触した後に、衣服・靴を替えないで他の動物に直接接触すると口蹄疫ウイルスを伝播する。
- ・ 衣服・靴を交換しシャワーを浴びれば、必ずしもダウンタイムをとらなくても、口蹄疫ウイルスを伝播することは無い
- ・ 口蹄疫ウイルスは、人の鼻腔内に長時間存在しない（少なくとも12時間以内で死滅）

イギリスおよびアメリカの口蹄疫に対するオフィシャル・ダウンタイム期間

- ・ DEFRA (The Department for Environment, Food and Rural Affairs, UK): 7日間（感染動物と接触後）
- ・ USDA (the United States Department of Agriculture): 5日間（アメリカ入国後）